

◇◇麻績村の教育環境の今後のあり方◇◇

答 申

平成21年12月28日

麻績村教育問題検討委員会

答 申 書

《 はじめに 》

麻績村教育問題検討委員会は、麻績村教育委員会から「麻績村の教育環境の今後のあり方について」諮問され、平成21年3月7日に発足しました。

その後、7回にわたり委員会を開催し、特に保育園、小学校、中学校の今後の方向性に重点を置き、審議を重ねてまいりました。検討の過程におきましては、小学校部会、中学校部会、小中一貫校部会に分かれて利点、課題の細部についても審議を行いました。

また、保育園・小学校・中学校（麻績地区）保護者との懇談会を開催し、子育てに携わるより大勢の保護者の皆さんから意見を聞くなど、こまめな対応で多くの意見を伺ってまいりました。

ここに答申書をまとめるにあたり、筑北村教育のあり方検討委員会の答申「筑北村教育のあり方はどうあるべきか」も視野に入れながら、財政的問題や学校配置に伴う場所的問題等については考えず、将来の子ども達の学びのあるべき姿に重点をおいて、検討委員会としての基本的な考えをまとめ答申するものです。

I 保育園・小学校・中学校・小中一貫校の今後の考え方

1. 保 育 園

保育園につきましては、保育士と園児が密接に関わりをもって目の行き届いた保育が出来ることや、働く保護者にとって園児の通園に負担がかからない距離であること、また、緊急時に保護者がいち早く駆けつけられる位置であること等を考えると、現状での施設の運営を維持することが望ましいとの意見が多くの保護者より出されており、現保育園を維持していくことが望ましいと考えます。

今後、園児数の急激な減少により、人間関係の広がりや個々の個性を成長させる友達との関わりなど、適正な保育環境が保てなくなった場合は、同じ課題を抱える隣村との懇談などを行う中で、より良い保育の方向について再検討することも必要と考えます。

また、園児の生活習慣や生活リズム、食生活の乱れなどの課題については、保護者としての自覚と親の愛情を持って真に子どもと向き合い、改善に向けて取り組むことを促すことが望まれます。

2. 小 学 校

小学校につきましては、児童の減少傾向は続くものの、現段階では学習に対してきめ細やかな指導が出来る適正規模の教育環境にあると思われ、今後においても、当面は複式学級になる心配はないと思われ、また、保育園、小学校、中学校（麻績地区）の保護者の皆さんとの懇談会や、小学校学年PTAでの話し合いにおいても当面現状のままが良いという意見が多く出されております。

小学校の配置に対する考え方につきましては、当面現環境が望ましいと思われ、ます。

しかしながら、筑北地域においては児童の減少傾向が続いており、将来10人未満の学級が多くなることが心配されております。

将来的には筑北地域として、統合の必要性が生じた場合は、今後麻績村と筑北村が目指す教育理念のすり合わせを行い、より良い方向へ検討を進めることを望みます。

3. 中 学 校

中学校につきましては、一時的に生徒数が増えることから数年は学級数が増える傾向となりますが、それを過ぎると減少傾向が続くものと思われ、ます。

また、近年の中学校への進学については考え方が変わってきており、附属中学校や私学の中高一貫校に進む子ども達が増える傾向にありますし、長野県下の公立高校においても中高一貫校を目指して準備を進めている学校もあり、生徒の減少が心配されるところであります。

保護者等の中には、学年を超えた結びつきが強く、生徒同士の思いやりや支え合いがあり責任感ある明るい生徒が育っていることから、小規模校ならではの現環境を維持することが望ましいとの意見もあります。その反面、多くの仲間と切磋琢磨することが逞しく思いやりのある人間性を養えること、学級数の少ない学校においては定められた教員配当数が少なく、教科学習全てを指導する教員の確保が難しいこと、部活動においては選択肢が少なく生徒の希望がかなえられないことなどから、統合を望む声が多く保護者から聞かれております。

現在でも両村の組合立である筑北中学校が聖南中学校と統合することについては、合意が整えば統合する方向が望ましいと考えられます。

⑤ 各種相談事業の実施

- ・たんぽぽクラブ（誕生前の妊婦対象） → 筑北村との共同事業
- ・赤ちゃん相談（1歳まで）
- ・お誕生教室（1歳児） → 筑北村との共同事業
- ・2歳児相談（2歳児） → 筑北村との共同事業
- ・あそびの教室（特に保健師が関わりを持つことが必要と思われる方） → 筑北村との共同事業

⑥ 難病患者等福祉手当の支給

- ・小児慢性特定疾病の患者の保護者に年額20,000円の福祉手当支給（プライバシーを考慮し申請した方のみ支給）

2) 課題

- ・相談事業に関して、保健師で対応しているが専門的職種の職員（管理栄養士・助産師等）が不在のため雇い上げで対応せざるを得ない状況です。地域的なこともあり、思惑通りに雇い上げが出来ないこともあります。
- ・今後において福祉医療の対象を中学生まで拡大することも視野に入れておりますが、財政への負担についても対応が必要と思われれます。

《付帯意見》

全国的に少子化が進み人口動態も減少することが推測されておりますが、国ではよりよい子育て環境を整えようと、出生の経済的負担を軽減する出生一時金のかさ上げや中学校卒業までの子ども手当での創設、公立高校の実質無料化と私立高校への学費負担の軽減などの施策を打ち出しております。

村においても将来を担う子どもたちを、安心して生み育てられるような、子育て環境の充実や手厚い子育て支援の実施に向けて、更なる各種施策の積極的な取り組みを望みます。

2. 保 育 所 （保育園）

1) 現 状

乳幼児を保護しその健全なる育成を図るため保育所を設置しています。

① 平成21年度の園児数（平成21年4月現在）（人）

未満児	年少	年中	年長	計	定員
9	13	18	17	57	90

② 保育料の推移

国の定める保育料徴収基準率と本村の保育料の比較をすると、各階層の平均で、3歳以上児では約65%、3歳未満児では約70%の設定となっています。(筑北村と麻績村の徴収基準額は同じです。)

(保育料収入)

(単位：千円)

年度 項目	平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算見込み額	平成21年度 当初予算額
保育料収入	20,679	17,430	15,052	12,900

③ 近年の出生数

(人)

年 度	18年度生れ	19年度生れ	20年度生れ
出生数	16	15	17

④ 今後の園児数の推計

(人)

年 度	年 長	年 中	年 少	0～2歳	計
平成21年度	17	18	13	9	57
平成22年度	18	13	14	10	57
平成23年度	13	16	15	9	53
平成24年度	16	15	17	8	56
平成25年度	15	17	12	7	51

・マーカーの部分は推計

2) 現状における利点と課題

① 利 点

- ・現在の園児のクラス人員については、保育士と園児がより密接的に関わりが持て、園児一人ひとりに目の行き届いた保育ができています。
- ・異年齢活動をするのにも現在適正な規模と思われます。
- ・地域の保育園であるという意識があり、地域の方々も常に関心を持ち色々な分野で園児との関わりが多いと思われます。
- ・働く保護者にとって預けやすい通園距離にあります。
- ・保護者との綿密な連携が図られ、緊急時にも迅速な対応が図られています。
- ・園児たちの個性を活かした保育内容や住民との交流が図られています。

② 課 題

- ・園児数が減り友達との関わりの範囲が狭くなっています。

- ・ 親の生活環境に対する考え方の変化から園児の生活習慣、生活リズム、食生活の乱れに親が向き合い考える必要があります。
- ・ 親の愛情や親子のかかわりが一番大切であり、親の意識改革も必要であります。
- ・ 親同士の交流の場や親子の居場所作りなど、子育てや子育てを支える環境が保育園にも必要であります。
- ・ 保育士の移動がないので保育のマンネリ化傾向があります。
- ・ 園児数の減少に伴い今後財政面からも効率よい運営を図る必要があります。

《付帯意見》

近年、夫婦で働く保護者の家庭が多くなってきており、面倒を見る家族が居ない家庭においては、園児を預かる保育時間の延長や、子育てをする親の負担軽減を考えた通園バスの運行などに対する要望も出ております。

また、保護者の生活環境の変化に伴い子どもたちに与える影響などについても、子どもの目線で考えられる親としての意識改革も求められており、子どもの変化に一番敏感な保育士と保護者の懇談をこまめに実施することも望まれております

保育士においても、1園であるため交流が無く保育のマンネリ化が指摘されておりますが、各種研修や交流事業などに積極的に参加して、常に新鮮で質の高い保育が出来るような取り組みを望みます。

3. 小 学 校

1) 現 状

小学校は、心身の発達に応じて、初等普通教育を施すことを目的としています。

① 学校の児童の推移（平成20年度生まれた子どもの入学まで）（人）

年度	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	合 計	学級数
21	22	22	30	24	19	26	143	6(+特支)
22	17	22	22	30	24	19	134	6(+特支)
23	18	17	22	22	30	24	133	6(+特支)
24	13	18	17	22	22	30	122	6(+特支)
25	16	13	18	17	22	22	108	6(+特支)
26	15	16	13	18	17	22	101	6(+特支)
27	17	15	16	13	18	17	96	6(+特支)

- ・同学年の児童で編制する学級

小学校第1・2・3・4・5・6学年 35人

- ・二の学年児童で編制する学級（複式学級）

小学校 8人 「飛び複式学級」にあつてはいずれの学級も4人

② 麻績小学校の現状と教員配置数（平成25年度の場合） (人)

項/学年	1	2	3	4	5	6	合計
人数	16	13	18	17	22	22	108
学級数	1	1	1	1	1	1	6 (+特別支援)

- ・教員配当数・・・(校長1、教頭1、担任6、専科1 9名)

- ・当面は現状維持でも複式学級にはならない。

③ 麻績小学校と坂井小学校が統合した場合の現状と教員配置数
(平成25年度の場合) (人)

項/学年	1	2	3	4	5	6	合計
人数	27	21	29	30	35	30	172
内坂井小	11	8	11	13	13	8	64
学級数	1	1	1	1	1	1	6 (+特別支援)

*麻績小・坂井小の2校統合の場合

- ・教員配当数(校長1、教頭1、担任6、専科1 9名)

※教員配置数については、統合しても配置数に変わりはありません。

2) 現状における利点と課題

① 利点

- ・児童たちの仲が大変良く、また、家庭・地域においても、「私たちの学校」という意識があり、学校教育に大変協力的であります。
- ・少人数での学習であり、児童一人ひとりに対して目が行き届き、きめ細やかな指導ができています。
- ・授業や諸活動において、常に何らかの立場や役割を担い、自主的に活動に望む事ができます。
- ・児童会や縦割りの活動では、高学年の児童が中心的な役割を担えたり、低学年の面倒を見たりしていくことで、その活動から自分に自信を持ち更なる向上を目指す姿を見ることができます。
- ・一村一校の小学校であることから、村の行政や教育委員会、更には関係する諸機関との連携が大変スムーズであり、協力が得やすいと感じられます。

② 課題

- ・保育園時代からの人間関係が変化せず、序列化・固定化された集団になってしまいがちである。また、競争心が育ちにくく、人間関係の広がりや改善を図り個性を發揮しながら社会性を身に付けていくことが困難であります。
 - ・日々の授業や活動の中で、多面的に物事を見たり考えたりすることができにくいです。
 - ・少子化傾向により今後の児童数の増加は見込めず、学年による人数の偏りが顕著なものになると、複式学級も将来展望として視野に入れていかなければならないです。
- *麻績村が小学校のあり方を現状で良いとの結論を出した場合は、筑北村の答申内容と相違が生まれて、今後の両村の教育問題の考え方に課題が残ります。

3) 麻績小学校と坂井小学校が統合した場合の利点と課題

① 利 点

- ・保育園から小学校に入って新たな人間関係が広がり、競争心が育ち刺激の中から個性が磨かれ社会性が身についていくと思われれます。
- ・両村においては少子化傾向にあるが、両小学校の統合により学年による偏りはあるものの複式学級になる年度が延びます。

② 課 題

- ・麻績小学校と坂井小学校が統合しても学級数は増加せず、1学級の構成人数が増えるだけで、先生の児童に対する目が行き届きにくくなり、きめ細やかな指導助言ができにくいです。
- ・2校統合しても教員の配置には変わりがなく、先生と児童一人ひとりが向き合ったきめ細やかな授業が難しいです。
- ・人数が多くなると授業や活動の中で児童一人ひとりの責任ある役割が担えない児童も出てきて、自主的な活動に対する意欲が伸びないです。
- ・学校が無くなった地域においては、学校に対する支援意欲が失われます。
- ・筑北全体では教員数が大幅に減少します。
- ・通学距離が遠くなりスクールバス等の通学手段の対応や安全対策が必要となります。
- ・組合立小学校になれば、一村だけの考え方では学校運営ができず、常に両村の調整が必要となります。

《付帯意見》

小学校の現状においては、子ども達が自然豊かな環境の中で、子ども達同士が切磋琢磨しながら先生と一体となって学習に取り組んでおり、小規模校として将来児童の減少から複式学級等が心配されるものの、大変良い教育環境が保たれていると思われまます。

家庭教育については、すべての教育の出発点であり、基本的倫理観や社会マナー、自立心や自制心を育成する重要な時期とされておりますが、生活環境の多様化等から家庭教育力の低下が指摘されており、一部に学校教育に任せきりの傾向も見られ、学校職員に大きな負担がかかっております。学校、家庭、地域、行政がそれぞれの役割を果たし、連携協力を強化しながら一体となった取り組みによる、教育力の向上が図られることが望まれております。

また、子どもたちは「おみ図書館」、「子ども教室」、「児童クラブ」等を通じて、地域の皆さんとの関わりも大変多くなって来ており、地域の自然や文化とのふれあい、地域の農業体験や昔遊び体験など、今後も、地域と一体となった教育体制の確立にも目を向けていただきたいと考えます。

子ども達が、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」が養えるような、教育環境の充実に向けて手厚い施策の取り組みを望みます。

4. 中 学 校

1) 現 状

中学校は、小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、中等普通教育を施すことを目的としています。

① 筑北中学校の推移 (麻績小学校・坂井小学校) (人)

年度	1 学年	学級数	2 学年	学級数	3 学年	学級数	人数合計	学級数計
2 1	3 6	1	3 8	1	4 0	1	1 1 4	3
2 2	4 1	2	3 6	1	3 8	1	1 1 5	4
2 3	3 4	1	4 1	2	3 6	1	1 1 1	4
2 4	4 5	2	3 4	1	4 1	2	1 2 0	5
2 5	4 6	2	4 5	2	3 4	1	1 2 5	5
2 6	3 0	1	4 6	2	4 5	2	1 2 1	5
2 7	3 5	1	3 0	1	4 6	2	1 1 1	4

・同学年の生徒で編制する学級

中学校第1・2・3学年 40人

・二の学年生徒で編制する学級 (複式学級)

中学校 8人 「飛び複式学級」にあつてはいずれの学年も4人

② 麻績小学校と坂井小学校の現状と教員配置数

(平成25年度の場合) (人)

項 / 学年	1	2	3	合 計
人 数	46 (16)	45 (21)	34 (15)	125 (51)
学級数	2	2	1	5 (+特別支援)

・()内は坂井小学校の生徒数

・教員配当数 (校長1名、教頭1名、担任5、専科3名 10名)

③ 筑北・聖南中学校が統合した場合の現状と教員配置数

(平成25年度の場合) (人)

項 / 学年	1	2	3	合 計
人 数	79 (33)	72 (27)	58 (24)	209
学級数	2	2	2	6 (+特別支援)

・()内は聖南中学校の生徒数

・教員配当数 (校長1、教頭1、担任6、専科3 11名)

④ 筑北中学校 麻績小学校単独の場合 (平成25年度の場合) (人)

項 / 学年	1	2	3	合 計
人 数	30	24	19	63
学級数	1	1	1	3 (+特別支援)

・教員配当数 (校長1、教頭1、担任3、専科4 9名)

◎専科の先生・・・3学級=4名 4～6学級=3名 7学級=4名

2) 現状における利点と課題

① 利 点

・保育園、小学校からの知り合いで、友達同士で互いの性格や長所や短所をよく知っています。そのため、学級内は勿論、学年を超えた結びつきが強く、生徒同士での思いやりや支え合いが行われています。

・麻績小学校と坂井小学校の2つの小学校から生徒が来ているので、入学と同時に新しい仲間との出会いがあり、お互いに良い刺激となっています。

・掃除や生徒会の当番活動、福祉活動等の身体を使った仕事を一生懸命行い、手を抜くことが少ないです。

・挨拶や全校で集まった時のマナー (静かにする、人の話をしっかりと聞く等) は自然に身につけており、素直で明るい性格の生徒が多く、学校生活を楽しんでいます。

② 課 題

- ・上記の反面、自分の意見を出して、相手に分かってもらおうとするコミュニケーション能力にやや欠ける面があったり、仲間と切磋琢磨して問題解決のために行動したりといった場面では弱い面が見受けられます。
 - ・仲間と力を合わせて行動するという良い面の反対に、自分一人でも行動するという内面の強さにやや課題が残ります。
 - ・部活動の数が少なく、生徒の選択肢が限られてしまいます。
 - ・学級数に応じた教員の配当数が定められており、非免許の教員が教科学習を行う必要が出てきます。
- *麻績村が中学校は現状で良いとの結論を出した場合は、筑北村の答申内容と相違が生まれて、今後の両村の教育問題の考え方に課題が残ります。

3) 筑北中学校と聖南中学校が統合した場合の利点と課題

① 利 点

- ・麻績小学校、坂井小学校、坂北小学校、本城小学校の4つの小学校から生徒が集まるので、大勢の新しい仲間との出会いがあり、お互いが良い刺激となります。
- ・各学年2クラスとなり、大勢の人間関係の中から切磋琢磨され、個性を磨き、社会性を身に付けることができます。
- ・学級数によって教員の配当数が決まってくるが、統合により2名の先生が増え9教科を指導する体制がぎりぎりとれます。非免許の教員が教科学習を行う必要がなくなる可能性が出てきます。
- ・部活動については、現在の部活動の種類（野球、剣道、女子バレー、吹奏楽）よりも多くなり、希望にかなった選択肢が増えます。また、部員数の確保もでき大会への参加も容易になるしレベルアップにも繋がります。

② 課 題

- ・生徒数が多くなれば、一人ひとりの生徒に目が行き届きにくくなります。また、先生が一人ひとりに係わる時間も少なくなり学力差が大きくなるのが心配されます。
- ・各種行事や生徒会活動などに係わる生徒が偏り、責任ある行動力や自分への自信が養われにくくなります。
- ・生徒一人ひとりの学力に対する競争心はわくが、生徒同士での思いやりや支え合いが薄くなります。

- ・数の上での問題点の解決には繋がるが、小規模校ならではの真の教育環境の充実については課題が残ります。
- ・統合した場合は、筑北全体では教員数は大幅に減少します。
- ・通学距離が遠くなりスクールバス等の通学手段の対応や安全対策が必要となります。

《付帯意見》

中学校については筑北村との組合立で両村の生徒が学んでいますが、保護者からの意見集約の段階においては麻績地区の保護者との懇談会しか行っておらず、今後両村保護者全体での懇談会等の機会をつくり、十分意見を聞いていただくことを望みます。

また、現況での利点・課題、そして統合によって生じる新たな課題についても深く掘り下げて検討を行い、課題解決に向けた方向性をしっかり持って生徒の教育環境の充実を図ることを望みます。

5. 小中一貫校

小中一貫校については、全国的にも取り組む市町村が増えてきており、長野県においても菅平小中学校が平成21年6月から小中一貫校へ移行しております。また、両小野小中学校が平成23年度から小中一貫校へ移行するべく現在準備を進めております。

当委員会でも小中一貫校について、審議の対象にして部会等でも細部について検討をいたしました。小中一貫教育は中学校進学を境に授業についていけなくなる「中一ギャップ」の解消や、9年間を通じての効率的なカリキュラム編成、質の高い教育内容の充実、地域の自然や文化を活かした学習の強化などが図れるなど、異学年交流が活発になると共に地域との連帯感が強まり地域の活性化にも繋がるのが利点として考えられます。その反面、小規模の学校ではメンバーが変わらず、いじめ問題等があっても解消がされないこと、児童生徒の体格差による安全面への配慮が必要なこと、指導方法をしっかり決めないと単なる同居に終わること、近年、教育の方向性が小中一貫校から中高一貫校に目が向けられていることなどが課題として考えられます。

現段階では、まだまだ課題も多いと思われ、今後急激な児童・生徒の減少により効率的な学校運営が望まれるときは、新たに開設されます小中一貫校の現状を調査する中で、筑北全体での取り組みも視野に入れながら研究する必要があると思われまます。

しかしながら、小学校教育と中学校教育の接続・連携・継続性を効果的に行

い、基礎的な力を養い個性豊かで心身ともに逞しい子ども達の育成が期待できる小中一貫教育については、今後十分論議を深めることが重要と考えられます。

1) 上田市立 菅平小中学校の概要

①小中一貫校への移行経緯

- ・平成19年11月22日内閣府より「小中一貫校教育特区」として認定
- ・平成21年6月1日文部科学省指定教育課程特例校へ移行
(小中併設校から小中一貫校となりました。)

②児童・生徒数

- ・平成21年度入学者 小学校 7名 中学校 13名
- ・全校児童・生徒数 小学校 60名 中学校 41名 計101名

2) 塩尻市辰野町学校組合立 両小野小学校・両小野中学校の概要

①小中一貫校への取組み状況

- ・小中一貫校への移行時期 平成23年度を予定に現在進めています。

②児童・生徒数

- ・全校児童・生徒数 小学校 181名 中学校 126名

③小中一貫校の学校施設の考え方

- ・校舎が別のまま連携する小中一貫教育を念頭においた一貫校
(両校の距離は約1km)

Ⅲ 全体を通しての付帯意見

麻績村教育問題検討委員会の審議の中においては、少子高齢化と過疎化が進む村の現状をふまえて、工場誘致など若者の働く場所の確保や低賃貸住宅の建設など、村の活性化に向けた改善策など行政に対する要望的意見も多く出されました。

今後、村におきましても、「麻績村に住んでいて良かった」、「麻績村に住んでみたい」というような魅力に満ちた村づくりに向けて事業展開を積極的に進めていただきたいと思います。

また、当委員会からの答申に対して教育委員会で内容の審議が行われると思われませんが、更に幅広く保護者や村民皆様方の意見を聞く機会を設けて、教育環境の今後のあり方について、十分理解を深めていただくことを望みます。

《 あとがき 》

昭和44年4月1日に麻績小学校と日向小学校が統合し50年が過ぎようとしておりますが、当時、学校統合の協議に携わり決断をした関係者の皆さん方の苦悩があらためて偲ばれます。また、特に地域の皆さん方におきましては、地域の拠り所として思い出深い学校の廃校は、活発な論議を経ての苦汁の決断であったものと思われまます。

当委員会におきまして半世紀の時を経て、教育環境の方向性や配置について審議をいたしました。その重大性をひしひしと感じながら、将来の麻績村を支える限りない可能性を秘めている子ども達の教育環境の充実だけを考え、審議を深めさせていただきました。

そこに学ぶ子ども達が、自然豊かな地で「明るく伸び伸びと逞しく生きる力」を育む学校環境を保つことが、熱意を持って築き上げてきた先覚者たちの教育理念と考え、後世に伝えて行くことが私たちの務めと思われまます。

審議に当たりましては、子育てに携わる多くの保護者の皆様方から意見をいただきましたことに御礼を申し上げ、麻績村教育問題検討委員会としてここに答申ができますことを感謝申し上げます。

平成21年12月28日

麻績村教育問題検討委員会の開催経緯

- | | |
|---|-----------|
| * 発足および第1回検討委員会 | 平成21年3月7日 |
| * 第2回検討委員会 | 4月27日 |
| * 第3回検討委員会 | 5月28日 |
| * 第4回検討委員会 | 6月29日 |
| * 第5回検討委員会
・小学校部会、中学校部会、小中一貫校部会に分かれて審議 | 7月23日 |
| * 保育園・小学校・中学校（麻績地区）保護者との懇談会 | 9月17日 |
| * 第6回検討委員会 | 10月23日 |
| * 小学校保護者の意見集約
・参観日に学年PTAで実施 | 11月26日 |
| * 第7回検討委員会 | 12月22日 |